

平成25年行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	食品安全確保総合調査費		担当部局	食品安全委員会事務局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成15年度		担当課室	総務課		山本麻里 総務課長		
会計区分	一般会計		政策・施策名	-				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	食品安全基本法(平成15年法律第48号)第23条第1項第6号及び第7号		関係する計画、通知等	「食品安全委員会運営計画」 「食品の安全性の確保のための調査研究の推進の方向性」				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	的確な食品健康影響評価(リスク評価)等を行うために、必要な食品の安全性の確保に関する様々な危害要因に関する最新の科学的知見の収集・整理・解析等の実施に資することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「食品の安全性の確保のための調査・研究の推進の方向性」(平成22年12月16日食品安全委員会決定)に基づき、各種ハザードについて調査・研究を効果的・効率的に行えるよう、そのハザードの性質や優先度等に基づき、①化学物質関連分野②生物学関連分野③新しい評価手法の開発に関する分野④自ら評価や新たなハザードへの対応、緊急時対応等に必要分野の中で優先順位をつけて計画的に課題を選定し、各国の食品安全機関・国際機関等が保有する評価に関する情報、各種科学文献等から入手できる毒性メカニズム、暴露等の情報の収集整理や、食品中のハザードの含有実態調査など評価に必要な情報を得るための分析調査を実施。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	179	92	81	64	97	
		繰越し等	0	0	0			
		計	0	0	0			
	執行額	179	92	81				
	執行率(%)	141	92	61				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	最新の科学的知見に基づいた食品安全評価等を通じた食品の安全性の確保を行うために必要な科学的知見及び食品中のハザードの含有実態等の情報を確実に得るための調査の推進	成果実績	課題		11	8	5	-
		達成度	%		100	100	100	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	食品安全確保総合調査結果(報告書)の食品安全委員会ホームページ掲載件数(※前年度終了課題のホームページ掲載件数を記載)	活動実績 (当初見込み)	件		13 (13)	11 (11)	8 (8)	- (5)
		算出根拠			平成24年度実施調査事業契約額(60,957,750円)÷平成24年度実施調査課題数(5課題)			
単位当たりコスト	12,191,550(円/課題)							
平成25・26年度予算内訳	25年度当初予算		26年度要求		主な増減理由			
	食品安全関係調査費		64		97		「新しい日本のための優先課題推進枠」49	
計		64		97				

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	国が行うべきリスク評価を適切かつ迅速に実施するために不可欠な調査を行うものである。食品の安全性の確保に関する国内外の最新の情報の収集や科学的知見の充実を図るために必要な事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	総合評価落札方式による一般競争入札により食品安全確保総合調査実施要領等に基づき請負者と契約を行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	本調査事業では、リスク評価等を行うため、体系的に科学的知見の収集・整理・分析を行っており、実効性の高い手段となっている。調査課題の選定に当たっては、「食品の安全性の確保のための調査・研究の推進の方向性」に基づき、食品健康影響評価技術研究事業との調整を行って実施している。調査報告書については、リスク評価やファクトシートの基礎データとして活用している。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	22年度公開プロセスを受けて、調査事業全体を精査し、優先度の高い調査の選択等に重点をおき、予算額の大幅減額を行った。また、今後の概ね5年間で必要な調査・研究についての目標や道筋等について定めた「食品の安全性の確保のための調査研究の推進の方向性について」を食品安全委員会で決定(平成22年12月16日)し、シンクタンク業界団体等を通じて公告関係情報を迅速に提供するとともに、公告開始から入札までの期間を延長するなど入札環境を改善し、応募者の増加に努めた。 (公告～技術等提案書提出まで10営業日程度)→22年度以降(3週間)→22年9月以降(原則1ヶ月)公告時に調査実施内容説明会を実施。					
	平成24年度においては、「引き続き事業の適切な進捗管理、契約における競争性の確保などにより、予算の効率的執行に留意すべき」との指摘を踏まえ、計画性、戦略性をもって優先度の高い調査を選定して実施することとし、調査実施内容説明会を実施している。当該事業による情報収集、調査の結果については、食品健康影響評価を実施するに際し、基礎的な情報として活用しているところである。さらに、結果については、ホームページで公表しているところである。 (http://www.fsc.go.jp/senmon/anzenchousa/index.html)					
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	引き続き、事業の適切な進捗管理、契約における競争性の確保などにより、予算の効率的執行に留意すべき。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	平成22年12月16日に策定した概ね5年間で必要な調査・研究についての目標や道筋等となる「食品の安全性の確保のための調査研究の推進の方向性について」に基づき計画性・戦略性を持って事業を実施しており、また、総合評価落札方式を適切に実施するとともに、競争性を確保するために公告期間を4週間程度確保している。					
備考						
(平成22年度公開プロセス) ・事業番号139 食品安全確保総合調査費 ・評価結果一廃止すべきという意見があることも受け止め大幅な改善を要する。 ・取りまとめコメントー計画性・戦略性をもった調査実施計画の策定や成果活用の重視と、競争入札の透明性を高め多くの業者が応札しやすい環境づくりなど大幅な改善が必要						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0139	平成23年	0143	平成24年	0141

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

内閣府食品安全委員会

61百万円

- ・調査計画の策定、調査課題の選定
- ・調査結果の公開
- ・調査結果の活用

【一般競争入札】

A. (財)日本食品分析センター

15百万円

- ・陰膳サンプルを用いた化学物質・汚染物質の分析調査

【一般競争入札】

B. (株)東レリサーチセンター

15百万円

- ・ポジティブリスト制度施行に伴う暫定基準の設定された農薬、動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価に関する調査

【一般競争入札】

C. (株)三菱化学テクノロジー

8百万円

- ・食品健康影響評価(自ら評価)を行うためのアクリルアミドに関する情報収集と分析

【一般競争入札】

D. (株)三菱総合研究所

15百万円

- ・食中毒原因微生物の評価のモデルに関する調査

【不落随意契約】

E. (株)三菱化学テクノロジー

7百万円

- ・フタル酸エステル類の食品健康影響評価に関する知見の整理、情報収集及び分析

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックごと
 に最大の金額が
 支出されている者
 について記載す
 る。費目と使途の
 双方で実情が分
 かるように記載)

A.(財)日本食品分析センター			E.(株)三菱化学テクノロジー		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査経費	陰膳サンプルを用いた化学物質・汚染物質の分析調査	15	調査経費	フタル酸エステル類の食品健康影響評価に関する知見の整理、情報収集及び分析	7
計		15	計		7
B.(株)東レリサーチセンター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査経費	ポジティブリスト制度施行に伴う暫定基準の設定された農薬、動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価に関する調査	15			
計		15	計		
C.(株)三菱化学テクノロジー			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査経費	食品健康影響評価(自ら評価)を行うためのアクリルアミドに関する情報収集と分析	8			
計		8	計		
D.(株)三菱総合研究所			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査経費	食中毒原因微生物の評価のモデルに関する調査	15			
計		15	計		

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱総合研究所	食中毒原因微生物の評価モデルに関する調査	15	1	96.5%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本食品分析センター	陰膳サンプルを用いた化学物質・汚染物質の分析調査	15	2	70.2%

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)東レリサーチセンター	ポジティブリスト制度施行に伴う暫定基準の設定された農薬、動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価に関する調査	15	2	81.2%

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱化学テクノロジーサーチ	食品健康影響評価(自ら評価)を行うためのアクリルアミドに関する情報収集と分析	8	2	94.6%

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱化学テクノロジーサーチ	フタル酸エステル類の食品健康影響評価に関する知見の整理、情報収集及び分析	7	不落随意契約	—